

平成 20 年度事務事業評価表(内部管理業務用)

①事務事業名		担当	部課コード	020100	TEL	2998-9030
事業コード	予算編成事務	財務部	財政課			
020102			グループ	予算担当グループ		

総合計画の体系	政策	第8章 計画の推進に向けて	施策	4節 財政運営	中柱	1 計画的な財政運営	小柱	(2) 効果的な財源配分
---------	----	---------------	----	---------	----	------------	----	--------------

行政改革大綱における行動計画への位置づけ

コード		コード		コード	
-----	--	-----	--	-----	--

目的(何のために行うのか、具体的に)

予算編成方針に基づき、個々の事務事業ごとに適正な内容を備えた予算案を効率的に調整する。

②事業の内容

対象(誰を、何を対象としているのか)

予算要求された事業

対象数	単位	平成 18 年度	391	事業
		平成 19 年度	393	事業

業務の具体的な内容及び実施方法

- ①市長から予算編成方針が部長等に通知される。
- ②部長等から予算に関する見積書等が財政課長に提出される。
- ③財政課長が財務部長の審査を経て予算原案を作成し、市長に提出する。
- ④市長査定を経た後に、財政課長から各部長宛てに予算案が通知される。
- ⑤補正予算については、予算編成方針が示されない場合は同様の手続きを経る。

H	コストの見直し	<input type="checkbox"/> 大きい	<input type="checkbox"/> 少ない	<input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない	実施過程の見直し	<input type="checkbox"/> 大きい	<input checked="" type="checkbox"/> 少ない	<input type="checkbox"/> ほとんどない
19	20年度予算の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり			<input type="checkbox"/> 増額	<input type="checkbox"/> 減額	<input type="checkbox"/> 終了	

平成19年度中に改善した点

平成20年度予算から新財務会計システムによる予算編成を行ったため、各種資料の作成等が容易になり事務量の軽減が図れた。

③	経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
		当初予算		4,813	7,864	12,753
		決算(見込み含む)		4,994	6,682	
		含む人件費(嘱託職員)(臨時職員)	(人)	(人)	(人)	(人)
		正規職員人件費	2.85 人	26,220	2.85 人	26,773
		事業費合計		31,214	33,455	
		市民一人当たり(単位:円)		92.4	98.7	

④	指	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標	
		活動実績	各課の予算要求額	各課の次年度予算要求額	億円	817	842.9	—	—
			予算額	次年度当初予算額	億円	813	816.7	—	—
	標	成果分析	予算化率	予算額/予算要求額×100	目標値	100	100	100	100
					実績	99.5	96.9	実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2	
				%	達成率	99.5	96.9	1	

⑤	評価項目	見直しの必要性	評価理由及び対応策
	コストの見直し	<input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 少ない <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない	査定方法を一般財源枠配分方式にしたことにより、一件査定を行っていた頃よりも、査定の手事は軽減されている。
	実施過程の見直し	<input type="checkbox"/> 大きい <input checked="" type="checkbox"/> 少ない <input type="checkbox"/> ほとんどない	21年度予算編成にあたり、多くの行政課題や多様化する市民ニーズに対して、限られた財源を有効かつ効果的に配分できるよう努めていく。

業務を進めていくうえでの課題

歳入が伸び悩み、社会保障費を始めとする義務的経費が増加していく厳しい財政状況の中、各部が主体性を持って予算編成ができる一般財源枠配分方式は、一定の効果を上げているといえる。しかし、新規事業に充てられる財源が減少していく中、限りある財源を有効的に配分する手法を検討しなければならない。

⑤	次評価	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)
		平成20年度における目標設定	次年度以降の適正予算規模を算出する。	9月下旬
			総合計画実施計画、行政評価、二次評価との連携を図るとともに、決算統計や中長期財政計画等により次年度以降の適正予算規模を算出する。	
			効果的な予算編成手法の検討	6月下旬
			21年度予算編成にあたり、多くの行政課題や多様化する市民ニーズに対して、限られた財源を有効かつ効果的に配分できるよう努めていく。	

21年度予算の方向性 現状どおり 増額 減額 終了

昨年度の評価結果及び上記評価による、今後の業務の進め方

平成21年度予算編成にあたり、健全財政を維持するため財源の推計を詳細に行うとともに、実施計画との連携を強化し、「新規事業枠」「施設整備事業枠」「実施計画ランク」による、メリハリのきいた予算編成を行っていく。

評価日 記入者職氏名 財政担当参事 粕谷 不二夫

⑥環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し	計画コード	
施策の体系	施策の方向		